

能登町小木港で毎年五月、勇壮に繰り広げられる県指定無形民俗文化財「小木とも旗祭り」の主役である神輿が、美川仏壇の技で初めて大修復される。神輿は担ぎ棒を交換し、金箔を張り直すなどして、来春に神社に戻り、晴れ姿を見せる。

「とも旗」の主役神輿

美川公壇の技で再生



小舟とも旗祭り　日本海
航路を回る北前船が、船尾に小さな旗を立て祭りを祝つたのにならい、旗を立てたのが起源とされ、次第に長大化した。明治期には春祭りとして行われていたと伝わる。二〇〇六年（平成十八）年に県指定無形民俗文化財となつた。

7月の卒業公演をPR 中島高演劇コースは六日、七尾市の中島商店街で卒業公演のPR活動を行つた。同高校再編に伴い、二年後になくなるため、

住民や商店主に来場を呼び掛けた。公演の演題は「アゲイン」で七月十三、十四日に同市の能登演劇堂で行われる。互いに年をとつた怪人二十面相と少年探偵団が三十年ぶりに起こす大騒動を通じて人間の美学や誇りを伝える内容。同コースでは来月下旬から能登演劇堂で本格的にけいこを始める。

れる美川仏壇に修復を依頼することにした。能登半島地震で神社が被害を受けたことか

ら、鳥居などの修理を優先させ、一年遅れの依頼となつた。

の水嶋健治宮司による
と、神輿は百年以上前
に七尾市で造られたと
いわれるが、詳しい由

し、トラックに積み込
んだ。

水嶋宮司は「今回の修復で由来を示すものが見つかる可能性がある」と期待を寄せていく。